The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	学生アンケートより・受講してみての感想
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2007, 16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11460
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

学生アンケートより

受講してみての感想

今回も、授業に参加してくれた多くの学生の皆さんから感想を寄せてもらいました。鋭い考察や講師に対する批判、提案も混じっています。今回は、授業を担当した紀平、樫本、植田、高橋の四人の講師が寄せてもらった感想について寄せた応答、反論、言い訳、つぶやきも同時に掲載しています。

何かについて哲学するということは、徹底的に論理を追求することなのかと思った。ただそれだけだと論理学になってしまうし、哲学とそれとの差は何なのかは、まだよく分からない。そうとう割合で同じなのかもしれない、とも思う。身近なことについて哲学するとかなり時間がつぶせると思う。後で悩む時間を考えると、もっと時間をつぶせると思う。（河本・前後）

◆論理的に考えるということは、たしかに哲学的思考や対話にとって不可欠なことですが、論理的思考のおおもとには、(いわゆる論理学のような数式のような厳密な概念操作ではなく) 他人の意見をきちんと聞くことと、分かるように自分の意見を整理して伝えるという“態度”があるのだと思います。(高橋)

「哲学的議論」をすることが難し~いことが分かった。哲学的議論ができるようになるには、我々には少なくとも

・人の話を聞く (これは最終回の意見で出ましたが) そして理解する。

・理解してもらえるように話す。話している人だけが理屈を分かっているような状況もありました。

・発言の最初の「でも、・・・」、文末の「・・・思うんですよ。」、これはやめた方がいい。

このくらいは必要なんでしょうね。

ファシリテーターのやり方は人それぞれなので (クリス先生談) ファシリテーターはあれでよかったのでは？（笹井雄太・前後）

▲三つ目のポイント「発言の最初の・・・」についてですが、その是非はわかりませんが、話し方 (とくに接続や文末表現) にはその人の考える道筋が、発言の内容以上に表れていると考えられることはできないでしょうか。笹井君がそこに発言者のクセを見抜いたのであれば、あるいは発言者の考え方のクセを発見していたのかもしれません。(植田)

栗栖ファンという理由で取ったこの講座、前期は難しくて何言ってるのかよく分からず ...。後期の議論も議題が難しく ...。世の中難しいな、ということがわかって結構楽しかったです。ありがとうございました。結局哲学的って何？

（大西弘毅・前後）

▲私自身が学んだことですが、議題がいかに難しくても、切り込み方で議論が如何様にでも（良くも悪くも？）進行していってしまうのでしょう。（植田）

◆栗栖先生を越えられなかったことがとても残念です。クリスト教恐るべし！（高橋）

哲学的議論は未経験の学生が集まって、しかも自分たちで決めた議題で議論しているわけだから、議論が上手く進むわけがなくて、大切なのは上手な議論をすることではなくて、それを求める過程なのだ！以上。（田中貴士・前後）

●その通りだと思います。（樫本）

後期の授業に前期の体験が活かせなかった。この講座を受けての一番の感想は、「日頃いかに考えずにしゃべっていることか」ということ。ソクラテスの対話ゲームで主張の理由を問われた際に「だってそうなんだもん」と言わざるを得なかったことが悔やまれる。一番大事なことは人の話を聞き、自分の考えをよく考えることですね。

（中山尚治・前後）

◆救いの回の朗読の男Bはかなりの怪演でした。あの二人の演技力が後の対話にも影響を与えていたと思います。ありがとうございました。（高橋）

講座における議論の内容は確かにあまり程度の高いものではなかったかもしれないが、その中において程度の高い議論とはどういうものかというのを模索できたという意味では、大いに意味のあることであったように思えた。色んな考えがあるということを理解しなくてはならない。決めつけてはいけない。願わくばもう少し回数が欲しかった。（柳田拓也・前後）

●「自分（達）が議論の程度の高い／低いを何で分けているのか」を考える回が欲しかったですね。（樫本）

▲「模索」を最終回の反省である程度言語化していくことができたと思いますが、その反省をフィードバックする議論をすることができませんでした。回数が足りないというよりは、それを考慮した講座の配分ができなかったことが問題であったと思います。（植田）

「哲学的議論をしよう」「しゃべり場にならないようにしよう」を目標にみんなで議論してきたが、最後に指摘があったように、どうしても自分の好き嫌いの言い合いになる傾向があり、達成できていなかったように思う。だけど「そう思う事が哲学的議論をするきっかけになる」というのはとても納得した。（若林洋平・前後）

◆苦し紛れの開き直りに納得していただけてよかったです。いつも絶妙のタイミングでの“名言”をありがとう。（高橋）

自分はこの講座に参加するのは初めてでしたが、今回は三回の議論においてはほとんど聞き役になりました。その理由としてはまずこういう議論の場に立つことがなくて、すぐに自分の意見をまとめることができなかったのもありましたが聞き役に回ることで自分が少し考えていた考えの他に他人はこういうことを考えているのだと知ることもできました。それに対して意見を言うことができませんでしたが、この場に参加すること自体に意義があったと思います。(小寺啓太・後)

▲議論 (あるいは対話でも) で「聞く」ことで重要なのは、それによって聞く者自身に何か変容がおこること、あるいは違う意見を他人の考えを聞くことで、自分の立場に気付かされるということなどがあると思います。他人の考えを知ること、自分の考えの主張とその根拠の提示でとどまるのであれば、それは複数人による演説みたいなものになると思います。(植田)

哲学的議論というものがどういうものなのかというのを少しつかめた、ような気がする。この講座の目的自体を勝手に解釈していた人も中にはいたようで残念。概して漠然としたテーマが多かったので行ったり来たりで出口が見えなかった。他人の意見が自分と違った時にそれを吟味せずに否定することから入るのはどうかと思った。(匿名希望・後期)

各自が自分の意見を持っていて、そしてそれを絶対にまげようとしなかった。これが今回の話し合いが上手くいかなかった理由だと思う。哲学的議論といっているが実際は選挙のようだった。まあ各自が感想をもったということで、この試みは成功だったと思う。　　(栗本真吾・前後)

●議論することに満足をおぼえるのか、議論した気でいることに満足をおぼえるのか、この違いは大きいですよね、きっと。君自身意見は変わりましたか ?(樫本)

第三回の「救い」の議論はおもしろかった。3 回の中で一番深く話せたと思う。だが、一つ不快だったのは、人の排反ばっかりいっている人がいたことだ。議論をするには、やはり何かの糸口がないとできないわけで、その人の好き嫌いからの発言でも十分に意味はあるはずだ。人の意見や議論をけなす前に自分のそのテーマの感想を言え、という感想をもった。けれども議論するときに必要なことは「自分の立場を明確にすること」、「今の議論はどこにあるのかを明らかにすること」ということがわかった。　　(匿名希望・後期)

● 自分がどういうスタンスで議論や他人に向き合うのかって重要なポイントですよね。(樫本)

哲学的議論をやろう、という目標でスタートして、結局哲学的に深い議論をするには至らなかったけれど、そこに至るまでの経過は楽しくやれ

ました。哲学的議論をするってどういうことなのか、というところから始まり、最後は遠慮なく自分の意見を言うことができるようにもなったので、この講座で得たものは大きいと思います。要は楽しければいいんじゃないのか !? どうもありがとうございました。　　(古川拓逸・前後)

◆議論することを「楽しむ」こと、自分の意見を臆せず伝えることは、確かにまず必要な第一歩だと思います。今回の講座では、そこから少し進んで、みんなが互いの意見をもう少し丁寧に聞きあうことができればもっとよかったなと思います。いつも議論を盛り上げてくれてありがとうございました。（高橋）

僕は『哲学的』ということがイマイチよくわかっていないだけなのかもしれないけれど、今回行った 3 回の議論にそこまでの高い水準を求める必要はないとおもった。(完璧を求めすぎるあまりそれ自体駄目になってしまうこともあると思う)

(梶浦康平・後期)

●確かに、〈かっこよさ〉を追求しすぎると逆に〈かっこわるく〉なりますもんね。(樫本)

一部の人が議論の質を下げているような気もしました。僕自身、議論の当事者として参加できなかったような気も ...。主催者サイドとしては、まだまだ環境状況を向上する余地があります。がんばって下さい。　　（小寺智也・前後)

◆これからも議論の “質” とはいったい何かということを考えながらがんばっていきたいと思います。今度機会があれば、観察者としてのクールな意見ではなく、ぜひ議論のまっただなかでの生の声を聞かせてください。(高橋)

もっと盛り上がった議論になると思っていたけど、沈黙が長くつまらなかった。議論だから誰も言わないようなレベルの高い発言をしなければと思い畏縮してしまった。前者の賛成の意見でもいいからもっと多く発言すれば、もう一つ上の議論ができたと思う。　　(鵜飼秀典・後期)